

ホワイトフラッシュワイドミニ点灯虫(ランプシステム)の 組立説明書兼取扱説明書

このランプは、内蔵されているセンサーにより走行中の明るさを感知し、自動的に点灯と消灯を行います。それぞれの部品の組み付け方法は以下の通りです。

またランプの点灯についても記載しています。組み立て後は、お客様にお渡しください。

▲ 注 意

- ハブダイナモは、発電量が高くなっています。車輪を回転させた状態で、絶対にハブダイナモのコネクターに触らないでください。感電する恐れがあります。
- 走行開始や低速時には点灯にちらつきが発生します。
- ハブおよびライトは分解しないでください。故障の原因になります。
- このランプはミツバ製6V2.4Wハブダイナモ MD10、シマノ製6V2.4Wハブダイナモ DH-2N30-J/DH-2N40-Jのみ対応しています。他ハブダイナモには対応しておりません。

1. 前輪の組み付け

❶ 強 制

- ハブダイナモのコネクターを進行方向の右側に組み付けてください。
- 前ホーク爪とハブダイナモの間に、必ず歯付座金を入れてください。
- ハブナットは、ねじの焼付きを防止するため、同封の専用ナットを必ず使用してください。
ハブナットの標準締付トルクは20N・m (200kgf・cm) です。
- ハブナットは、ハブ軸の共回り防止のため、交互に締め付けてください。

(ア) バスケットステー装着車の場合

ハブダイナモのコネクターの方向をバスケットステーに沿わせ上向きに組み付けます。(図1、2)

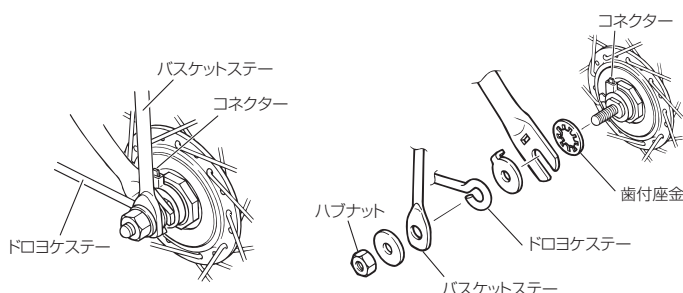


図1

図2

(イ) バスケットステー未装着車の場合

ハブダイナモのコネクターの方向を後向きに組み付けます。(図3)

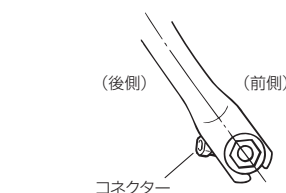


図3

(ウ) ハブナットの組み付け順序

ハブ軸が共回りしてコネクターの位置がずれないように、左右のハブナットを3~4回づつ分けて交互に締め付けてください。(図4)

特に、片側のナットを集中的に「締め付け」または「緩め」を行なうとハブ軸が強制的に回されて、ハブ本体のロックナットが緩んだり、締めり込んだりしますので注意してください。

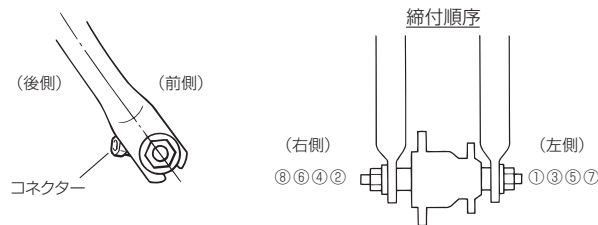


図4

(エ) 2線式ハブダイナモの場合、図5のように左側のコネクターに端子を接続してください。

※右側のコネクターは使用しません。キャップをはめておきます。

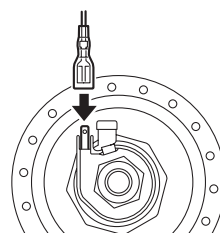


図5

2. ランプヘッドの組み付け

ランプヘッドはバスケットブラケット、もしくはFキャリアに組み付けます。(図6、7)

適度な角度に向きを調整して、しっかり組み付けてください。(締付トルク3~6N・m)

このとき歯付座金は必ず図6、7のように入れてください。

▲ 注 意

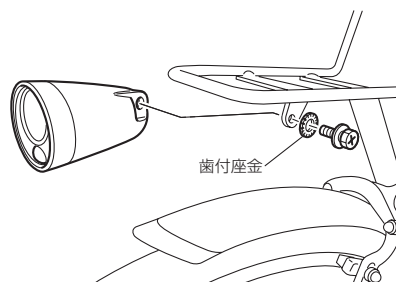
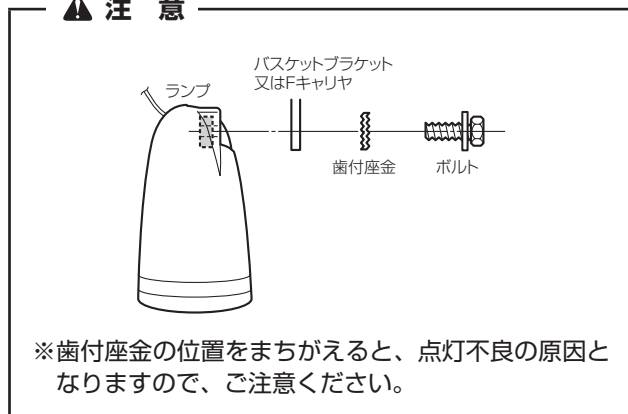


図6

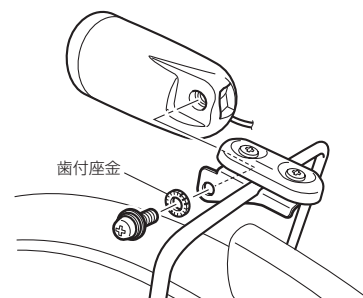


図7

3. ハーネスの配線のしかた

(ア) バスケットステー装着車の場合

ランプヘッドのハーネスをバスケットステーにたるみ、突っ張らないように巻きつけるか沿わせて、コードクリップでハーネスを固定します。(図8)

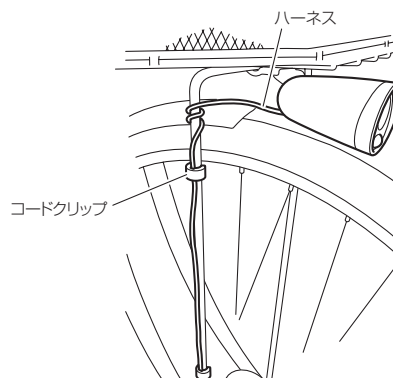


図8

(イ) バスケットステー未装着車の場合

ランプヘッドのハーネスを図9の様にFキャリア、マエホーク内側ケーブルホルダーの順に通してください。ハーネスのたるみはFキャリア、ケーブルホルダーの巻きつけ数で調整してください。このときハーネスが突っ張らないように注意してください。

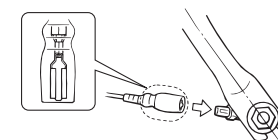
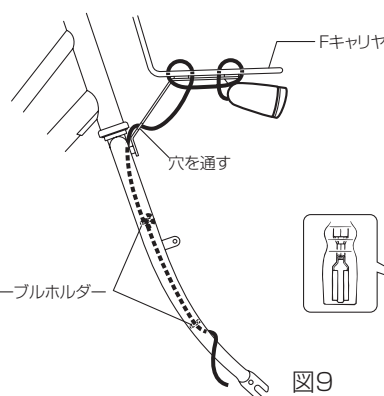


図9

図10

(ウ) ハブダイナモのコネクターにハーネスの端子を接続します。(図10)

4. 点灯の確認

このランプヘッドには切替スイッチがついており、それぞれのスイッチ位置で点灯を確認します。(図11)

①ONの位置： 前輪を回して点灯を確認。(下記注意事項参照)

②AUTOの位置： ランプヘッド下面のセンサー受光窓(切替スイッチ前方の丸い窓)を手で覆い、前輪を回して点灯を確認。

点灯しないときは

①接続部の接続状態を確認してください。

②歯付座金が十分に塗膜を突き抜けているか確認してください。歯付座金が塗膜を突きぬけていない場合は、若干塗膜を削り取ってください。

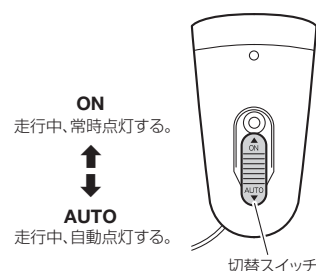


図11

▲ 注 意

ONにしている場合でも晴天時や日光が当たっている場合などには光を感知して点灯しないことがあります。